

学校名	浅口市立寄島小学校
授業者	平井貴美子 西山寛子 中塚菜々子

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「キラリいっぱい！守れ 寄島の海と人」

1-2. 学年

4 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習

1-4. 単元の概要

【青佐鼻海岸・三郎海岸の2つの海岸に親しんで寄島の海を知ろう】
 第一次では、導入時に社会科の「岡山県の様子」と関連させることで、海岸線がある、つまり海に面している市町村は限られていて、やはり「海」が特徴的な町であること、さらには二箇所も楽しめる海岸があることを捉えられるようにする。それを受けて、青佐鼻海岸と三郎海岸の二つの海岸を散策し、貝殻拾いをしたり生き物と触れ合ったり砂で遊んだりする。このとき地域の方と共に活動して話を聞くことにより、自分たちだけでは気付にくいよさ（キラリ）も十分に感じられるようにしたい。児童は、見付けた多くのよさを整理し比べる中で、2つの海岸に共通する点と異なる点があることに気づき、寄島の海のすばらしさを一層実感すると思われる。その一方で、海岸のゴミの多さにも気付くであろう。両海岸に共通するこの問題を寄島の海の課題として捉え、大好きな海をキラリと輝かせるためにもっと調べてみたい、自分たちにできることはないだろうかという思いを膨らませて、第二・三次の学習へつなぐ。なお、本単元が単なる危機感喚起の学習で終わらないためにも、十分に「キラリ」を体感して、見付けた課題を自分事として捉えられる素地を作っておくことが大切である。

【寄島の海を守るために、調べよう】
 第二次では、寄島の海の「キラリ」を輝かせるためという視点から、海ゴミを中心とした環境問題について調べていく。その際、共通体験と各グループでの活動、体験活動と本やインターネットを活用した調べ学習を意図的に仕組んでいく。
 具体的には、まず、「自分たちが進んでゴミを拾おう。」という素直な児童の発言を大切に全員で両海岸の清掃活動を行う。第一次の散策では楽しむことを主眼としていたため、拾ったゴミへの思いも「汚いな。」程度のものであるが、今回は目的をもって行うので、ゴミの量や種類について様々な気付きがあるであろう。その気付きを基に実際にゴミを分別したり、海水や砂浜からマイクロプラスチックを見付けたりと、自分たちの生活と結び付けながら調べていく。その中で芽生えた疑問やさらに調べたいことを話し合い、興味関心別にグループを編成して追究していく。グループ学習においては、毎時間、進捗状況や調べる中で出てきた疑問や困り感を全体で共有する場を意図的に設ける。共通の目的の下で共に考えたり助言し合ったりして、新たな気付きを得たり考えの幅を広げたりするためである。この調べ学習が深まってくると、何とかしたいという思いも膨らみ、話し合いでの発言や振り返りでのノートの記述に、改善するための取組に関するものが見られるようになるであろう。それらを取り上げて称揚し全体に返して広めることで、問題の当事者として自分たちに何ができるか考えることを一層促していく。なお、必要に応じて、専門家の話を聞いたり、地域や漁業協同組合の方に海ゴミの

現状を尋ねたりと、「人」と関わる学習を積極的に取り入れ、学びを深めていく。さらに、学校図書館の資料やインターネット上の情報を適切に活用できるように、学校司書やICT支援員とも連携していく。

【寄島の海を守るために、調べたことと私たちにできることを発信しよう】

第三次では、目的意識と相手意識を明確にして、第二次で調べたり考えたりしたことを発信していく。目的は、常に意識してきたことを再確認する。相手は、まず、同じような学習を経験した5年生に向けて発信する。昨年度の自分たちの学びと重ねて感想や助言をもらうことで、励みとしたり修正点を考えたりする。それを生かして、参観日に保護者と地域の方に発信してさらに感想をいただくようにする。さらに、地域の方への提言をまとめたリーフレットを、図書館や市役所の分室等に掲示してもらえよう依頼する。このようにして、体験したことや収集・整理した情報、それらを基に考え提案することをまとめ、複数回発信して意見をもらうことにより、自分たちの学びの深まりを自己と他者の両方の視点から価値付けられるようにしたいと考えた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

昨年度まで関わってきた青佐鼻海岸だけでなく三郎海岸にも行って、まずは自分たちの体でキラリと光るよさと課題を捉えられるようにする。課題は、児童の発達段階や社会科の学習との関連を考慮すると、体感しやすい海ゴミなどの環境に関わることに主になるであろう。捉えた課題を何とかしたいという思いを基に、調べたり自分たちにできることを考えて発信したりすることを通して、寄島の海を見つめ直し、故郷の海に自分事として向き合える児童を育成したいと考えた。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 寄島の海によさとその妨げとなる海の汚れに着目し、海ゴミの量や種類を調べたり、地域の方や専門家に聞いたり、本等で知識を得たりすることを通して、海の汚れは自分たちの生活の在り方が影響を与えていることに気づき、環境保全の大切さについて理解することができる。
【探究活動を通して身につけた知識・技能】
- 寄島の海によさを妨げる一因となっている海ゴミ等を調べる中で得た情報を整理し、工夫して表現するとともに、寄島の海を守るための具体的な取組を自分との関わりで考えて発信することができる。
【探究活動における思考・判断・表現】
- 環境保全の視点から、海ゴミを中心とした海の汚れに関わる問題と改善への取組について、進んで人と関わりながら調べたり考えたりすることができる。 【人と関わりながら学習活動に取り組む態度】

1-7. 単元の展開（全56時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
	<ul style="list-style-type: none"> 寄島の特長の1つが「海」であることを確認する。人口が同じくらいの県北の新見市との比較 既習学習や生活経験を基に寄島の海によさ(キラリ)を話し合う。 寄島町には海岸が2つもあることの確認 よさを妨げる問題点に関する発言の紹介 2つの海岸によさと課題を見付けに行く計画を立てる。 	発言 ノート

<p>1</p> <p>~</p> <p>13</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青佐鼻海岸を地域の方と共に散策して、よさと課題を見付ける。 貝殻拾い、生き物探し、砂遊び、ゴミ拾い 地域の方の思い ・青佐鼻海岸散策で見付けたよさと課題について話し合う。 ・三郎海岸を地域の方と共に散策して、よさと課題を見付ける。 貝殻拾い、生き物探し、砂遊び、ゴミ拾い 地域の方の思い ・三郎海岸散策で見付けたよさと課題について話し合う。 ・2つの海岸のよさと課題を整理したり比べたりして海の環境保全について関心をもつ。 個々に付箋紙によさと課題を書く→各グループで比較・グルーピング・ネーミング→全体で話し合っ て気付きを共有 	<p>行動観察 ノート</p> <p>【地域ボランティア】</p> <p>発言 ノート</p> <p>行動観察 ノート</p> <p>【地域ボランティア】</p> <p>発言 ノート</p> <p>付箋 発言 ノート</p>
<p>14</p> <p>~</p> <p>38</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青佐鼻海岸で地域の方と共に清掃活動を行い、きれいになった海岸を楽しむ。 ・三郎海岸で地域の方と共に清掃活動を行い、きれいになった海岸を楽しむ。 ・三郎地区にある海ゴミを回収している「海底ゴミステーション」を見学する。 ・海ゴミの現状について、専門家（NPO法人「グリーンパートナーおかやま」）の方から話を聞く。 海ゴミの種類、現状、原因、対策 海ゴミによる生き物への影響 自分たちにできること など ・講話から気付いたことや思ったことを話し合う。 ※専門家の方と一緒に、青佐鼻海岸の清掃活動②をする。（有志） ・今までに拾ってきたゴミを分別して調べる。 種類と量を表にまとめる。 製造年月日や生産国などからいつからある 	<p>【地域ボランティア】 行動観察</p> <p>【地域ボランティア】 行動観察 ノート</p> <p>【グリーンパートナーおかやま】 ノート 発言</p> <p>発言 ノート</p> <p>【グリーンパートナーおかやま】</p> <p>行動観察 ワークシート 発言</p>

<p>ゴミなのか、どこからやって来たのかを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ調べを通して気付いたことを話し合う。 ・寄島の海にもマイクロプラスチックがあるのか調べなぜ問題なのか話し合う。 <p>※あらかじめ両海岸より汀線の砂と海水を用意する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の環境保全に関わってもっと詳しく調べたいことや伝えたいことを話し合う。 ・調べたい内容を決める。 <p> テーマ毎にグループを編成 イメージマップの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターを使った調べ学習と情報の扱い方・引用の仕方について確認する。(ICT支援員) <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで、情報を「収集→整理」することを繰り返して調べる。 ・毎時間の最後には、調べ学習の経過と次時で行うこと、疑問点、困っている点等を交流して生かす。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる中で生まれた疑問点を解決するために、青佐地区・三郎地区・漁業協同組合の方の話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・もっと知りたいことを調べたり、分かったことや気付いたことを話し合ったりし、海の環境保全のために大切なことや自分たちにできることを考える。 <p> ※海ゴミについて長年研究している山陽学園中学・高等学校地歴部顧問の先生や生徒の話を聞く。 (本年度は感染症対策のため延期)</p> <p>※荒天後に、三郎海岸の清掃活動②を地域の方と共に行う。(地域の方の要望を受けて)</p>	<p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>発言</p> <p>行動観察</p> <p>発言</p> <p>イメージマップ</p> <p>ノート</p> <p>行動観察</p> <p>ノート</p> <p>行動観察</p> <p>ノート</p> <p>【地域ボランティア】 【漁業協同組合】</p> <p>発言</p> <p>ノート</p> <p>【山陽学園中学・高等学校】</p> <p>【地域ボランティア】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことのまとめ方や発信の仕方について見通しをもつ。 	

<p>39 ~ 56</p>	<p>目的意識・相手意識（誰に・いつ・どのように）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを基に伝えたいこと（発表内容）を明らかにし、大まかなプロットを作成したり分担を決めたりする。 ・海の環境保全のための具体的な取組の提案は必ず記載することを確認する。 ・国語科「新聞を作ろう」での学びを生かして、グループ毎に伝えたいことを新聞に表す。 <p>※ 作成した新聞を縮小印刷したものを、後日配布のリーフレットの内側に使用する。「リーフレット作り」の学びを生かして、外側を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に伝え方を考えて、必要な物を作成して練習する。 ペーパーサート・クイズ・紙芝居・実物の活用等 グループで見せ合い、よりよいものにする。 ・5年生に向けて発表し、助言をもらう。 ・助言を基によりよい発表となるように修正する。 ・保護者と地域の方に向けて発表する。（参観日） ・単元全体の振り返りをする。 ・気付きや考えをリーフレットの外側にまとめる。 ・海岸清掃で拾った流木や校庭の美化活動（朝のボランティア）で集めた落ち葉を用いて焼き芋を楽しむ。 	<p>行動観察</p> <p>行動観察</p> <p>新聞 行動観察</p> <p>発表</p> <p>発表 行動観察</p> <p>【保護者・地域ボランティア】</p> <p>発表 発言 リーフレット ノート</p>
------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 5 6 時間中の 2 5 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

友達と協力しながら、寄島の海岸の砂と海水にもマイクロプラスチック（5 mm以下のプラスチック）があるか調べ、その問題点を自分との関わりで考えることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、既習の「日々の生活から出るプラスチックが海ゴミの主なものとなっていること」や「拾いきれないゴミに困っていること」を想起させる。その後、前時に児童が立てた「<u>残念だけど</u> 寄島の海にもマイクロプラスチックはあるだろう」という予想を確認かめることを確認して、本時のめあてにつなぐ。
<p>寄島の海にもマイクロプラスチックがあるか確かめて、問題点について考えよう</p>	
2 採取した砂にマイクロプラスチックが見られるか調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ○本時は特に、「学びの姿」の「前向きさ：協力」「素直さ：表現」を發揮して学んでいくことを知らせる。 ・各班毎に、両海岸の汀線付近の表層砂（一度ふるいに掛けたもの）に海水を入れて浮遊物を見つけていくことを確認する。 ・調べ方の手順については、事前に確認しておくとともに、絵と言葉で視覚化して示すことにより、見通しをもって活動に取り組めるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ①砂に海水を注ぐ。 ②砂と海水を静かに混ぜる。 ③30秒待つ。 ④海水の表面に浮いてきた物をネットで集めて容器に入れる。 ⑤ネットに残った物も容器に入れる。 ②～⑤をもう一度繰り返す。 	
3 マイクロプラスチックの問題点について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・早くできた班には、色や形を虫眼鏡で見たり、指先で感触を確かめたり、数を数えたりして観察し、気

・各班で

付いたことをまとめるように指示しておく。なお、素材の細かな選別は専門的な知識を要して難しいので行わない。

○友達と協力して調べている班を称揚するとともに、困ったときには、班を超えて声を掛け合い助け合うよう促す。

・観察後、予想に照らしながら、マイクロプラスチックが見付かったか確認し、結果を共有する。その後、数名の児童に気付いたことや思ったことを発表させたり、「目に見えなかったら気にしなくてもよいのではないか。」と揺さぶったり、予想の「残念」という言葉とつないだりすることにより、問題点に着目できるようにする。

・各班で付箋に問題だと思うことを書き出し、学びボードの上に貼っていく。その際、気付いた問題点が大変だと感じるレベル1～5のどの段階に当たるか考えながら貼るよう指示する。それによって、なぜ問題と考えたのかその理由を明らかにしながら活動できるようにし、海の環境保全への意識を高める。

○自分の考えに自信をもちにくい児童には、他の児童の発言についてどう思ったか問い掛けたり、班の友達と相談しながら進めるように促したりして、自分の考えを表出しやすくする。

○友達の意見に対してしっかりと反応しながら聞いている児童を称揚する。

・「海が汚れる」等漠然とした内容に対しては、「どのように?」「例えば?」等問い掛け、生活と結び付けて具体的に考えられるようにする。

- ・海底にたまって行って、海が汚れる。
- ・海水に溶け込んでいったら、水の質が悪くなる。
- ・知らずに海の水を飲んだときに、体の中に入ってしまったら大変だ。
- ・魚たちが飲み込んでしまったら、体によくない。
- ・飲み込んでしまった魚を食べたら、体に悪そうだ。
- ・海水が雲になって雨が降るから、川も汚れたらどうしよう。

○交流タイムを設け、他の班の友達の意見を聞くことで自信を得たり触発されたりしながら、考えを広げられるようにする。

<p>・全体で</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各班で一番大変だと考えた問題点をその理由とともに発表し合っその共通点を考える。それによって、目に見えないからこそ対応しにくくて知らない間に影響を受けているかもしれないという大変さについて、考えを深められるようにする。 ・排水溝に落ちていた紙マスクの写真を掲示し、自分たちの生活ゴミが海の汚れの一因になっていることを再確認したり、日本人を含む世界各国の人の便からマイクロプラスチックが発見されたこと等を紹介したりする。それによって、マイクロプラスチックの問題を一層自分事として捉えられるようにする。 ・めあてに照らして板書を概観した後、本時の学びを発表することにより、児童の言葉を基にまとめを行う。
<p>寄島の海にもマイクロプラスチックがあった。海が汚れ生き物にも悪い影響がありそうだ。海を守るために、もっと調べて、できることを考えたい。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○カードを示してクラス全体の「学びの姿」の振り返りを行うことにより、共に学ぶ集団としての頑張りを確かめることができるようにする。 ○分かったことや考えたこととともに、「学びの姿」に照らして自分の学びを振り返ることができるようにする。

3. 今回の活動の自己評価

・海的环境保全に関わる学習は、単なる危機喚起の学習となったり、断片的な知識のみが一人歩きしたり、自分事として捉えにくかったりすることがあるが、今回、児童はふるさと寄島の一員として、自分との関わりで追究していくことができた。その主な要因は、「両海岸に複数回行って体験したこと」「寄島の海の『キラリ』を十分に見つけたこと」「『人』と関わりながら学習したこと」と考える。実際に出向いて寄島の海の多様なよさ（キラリ）を十分に体感したことが、「自慢の海を守りたい」という追究の原動力となった。また、複数回、それぞれ目的を深化させながら体験したことで、書物等で得た情報を実感が伴った知識としたり、様々な情報を関連付けて生活とつないだりする姿が見られた。さらに、たくさんの地域や専門家の方と関わることで、教師の予想を超えて自分たちで学びを紡いでいくことが度々あった。その顕著な例がある。海岸を清掃する度に新たなゴミが見付かることに不安を感じる児童がいた中、家族にインタビューした児童の「昔の寄島の海はもっと汚かったらしい」という声から、地域や漁業協同組合の方に詳しく話を聞くことになったことである（第二次第20時）。寄島の海が地域の方の努力によって美しくなってきたことや海の本当の豊かさにはバランスが必要であること、山とのつながりの大切さ、海ゴミを生かすという見方、新たな

取組の模索等、多くの気付きを得ることができた。その結果、「自分たちの努力でよりよく変えられる」という希望と、地域の方への誇りをもって、さらに追究していくこととなったのである。このように、「体験の充実」「キラリの実感」「人とのつながり」が、深い学びを生み出していったと言える。

・よりしま学は、横断的な学習であり、他教科とのつながりが深い。社会科の岡山県の様子やゴミ・水の学習のように他教科の学びをよりしま学で生かすことを意識して取り組んだことによって、児童の関心を高めたり思考の根拠をもちやすくしたりすることができた。さらに、他教科の学びそのものも充実した。例えば、国語科の新聞作りを生かして発信する内容を吟味したことにより、国語科の学びの定着を促すことができた。

・特に本時では、今話題のマイクロプラスチックの問題点を自分との関わりでよく考えていた。それは、実際に自分たちの手で見付け出したことによって、考えざるを得なくなったからである。見付けることを目的に実験をしているが、それは実は見付かってほしくないものであるという矛盾が児童の思考を揺さぶった。その布石となったのが、専門家のお話である。生活経験と伺った話をつないで考えて付箋に表現し、さらに友達と話し合いながら危険度のレベルを数値化することで、自分の言葉で考えを深めていくことができた。

4. 今後の課題

・本年度は、諸事情のため、継続的な取組を行っている高校生の話を聞く機会がなかった。大人だけでなく同じように学びの途上にある立場の人の話を聞くことができると、さらに、見方や考え方が広がった。

・本時は、45分授業で行ったが、弾力的な運用によって60分授業とすれば、学習活動3の全体での話合いの時間を十分にとってさらに考えを深めることができた。また、十分な時間を活用して、話合い後にマイクロプラスチックの問題を提起する映像資料を視聴することで、一層自分事として捉えることができたのではないかと考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

外部団体との連携を計画的に行う必要がある。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。